

新陽の歌



- ・どどこかの時代のどどこかの山の麓にある本丸
- ・創作審神者(爺さん)がもちろつと出ます
- ・審神者の力、伊達での過去、などの捏造を含みます
- ・(注意ください)



…弁当に着物と
あと…

地図は
いらねえなあ



行くぜ
大俱利伽羅

きみが居ないと
意味がないだろう！
はやて！



ふたりとも
気をつけてね



光忠




はは
相変わらず
元気だなあ
鶴さん



…そう急くな





天気良好
風も穏やか

山登りには
びつたりだな！

…そういえば
あんたその包みは
何なんだ

うん？
ふふ、あとの
お楽しみだぜ

落陽の夢



ああ、
坂を登ったところの

今も
やっているのか？



……で、
あんたが言っていた
寄り道とやらは
何処へ行くんだ

ああ、まずはあそこだ
前に来たとき途中に
茶屋があっただろう

あそこ団子が
美味そうだなあ……



……
もしやもう
店仕舞いして
いるか？

あそこ団子が
美味そうだなあ……

行けば
分かる



あの団子は
たれがいい塩梅で
かかっているなあ……

前は茶屋を通り
過ぎただけだったが……
食わなきゃ死ぬに
死ねないぜ

……
そんなに……

あつたな!



おい、あれじゃないか

あつたか?



あらまあ
父をご存知で



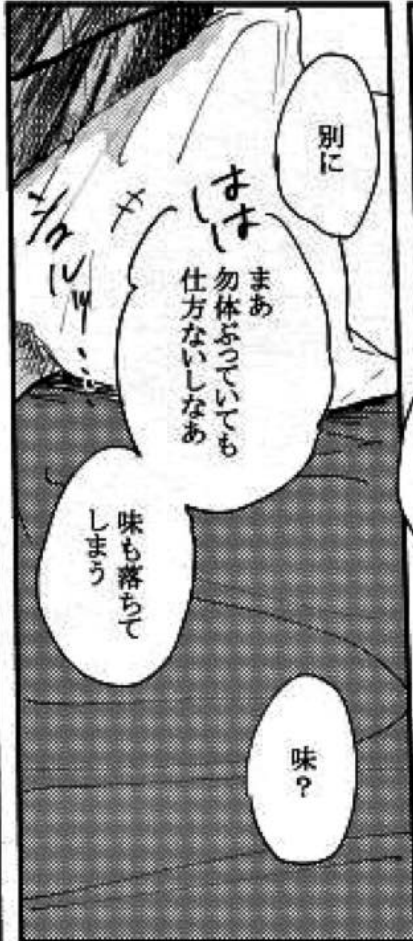
おれは、
あつたな!

ああ

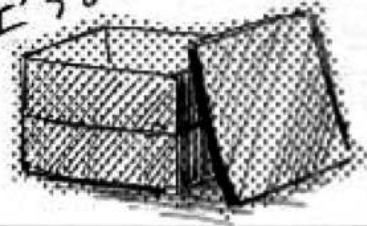


この頃はもう家で
居たあまり立てなく
なりましたってねえ

せつかく来て
いたいたのに
すみませんね



空っ



ああ
食った食った

さて
歩くか！

先はまだ
遠いぜ









いい思い出じゃないか！
あれで俺はきみの気持ちを知ったんだぜ

なんだよ、いい

……



きみは
可愛いよなあ

……



このあたり
だったか

そろそろ
着くはずだと
思ってたがなあ……

あ



あの木
だな！




ああ、そうだ
ここにいた

きみが連れて
きてくれた



チフ、
葉桜も
立派じゃないか



なあ、
大俱利伽羅

最後にきみと

ここへ来られて
よかった

歴史修正主義者との
長きに渡る戦いも最終局面を迎え、
政府の勝利は目前となった


何十年と続いたこの本丸で、
若かつた審神者も歳をとり床へ臥せった

ここ数日はもはや、審神者として力を
扱うことも困難であるとみられた

人間のように血の通った身体
でありながら、
刀剣男士たちが
歳をとることはなかった


二二〇六年
五月某日

おそらく今日が
本丸最後の日となる



審神者の魂と我々の
存在は繋がっており、
こうして顕現し、
人の身たらしめるのは、

術式のと、
刀ひとつひとつに分け与え
られた審神者の魂による
ものであるという



命が絶えると同時に
本丸を形成する空間も、
顕現している刀剣たちも、
その全てが消える

そう審神者本人の口から
皆へ告げられ、
薬研によれば、その容態は
もはや明後日の朝を迎え
られるかどうかであった





傍らでその最期を
看取ることを選んだ



彼をより慕う
ものたちは



最後までいい、私にかまわず
どうか思い思いに過ごしてほしい
と審神者は言ったが、



うん？

…あんたは
どうするんだ



好きに通りたくれって
主は言っていたけれど

そうだね

人の真似事
とは言え、
楽しかったんだ

僕は本体が
焼けてしまっているし、
こうしているのも奇跡
みたいなものだったからね



うーん…



そうか

何も変わら
ずいつも
みたいだ
よ

最後は
ミズ



入れ

…鶴丸か、

主よ
話があるんだが、
入ってもいいかい



夜分に
すまないな

いや
構わんよ

どうした

…先の話
なんだが



明朝、

外への門を
開いてくれ
ないかい

もう一度だけ、
あの山の桜が
見たい



…門の外は

暦の上では
初夏だ



それでもいいさ

それから
あの子を…

大俱利伽羅を、
共に連れて行って
いいかい



……

はは

はは
好きに
したら良い

飯に俺が止めた
ところで何の意味も
無いだろうに

いいだろう

使いに門を
開けさせよう



…恩に着る

はは、
なんの

ああ

本当にもう、
逝くのか

人間とは、なんと脆い

いつの時代もそうだ
いつだって見送ってきた

あんまりにも短いから、
うっかり笑ってしまいそうになる

けれど

あつと言う間にいなくなるくせに、
その行いも、言葉も、血も、
脈々と後世へ繋いでいく

脆いくせに、
どこまでも己の足で歩いて行ける







…そういえば、

きみは他に行きたい
ところは無かったのかい

ここに来るのにも
何も言わなかった
じゃないか



…そうだな

今更
行きたい場所も
無いな

遠征帰りに
偶然見つけたこの桜は、
伊達の屋敷にあったものと
似ている

だから以前、あんたを
連れてきた
…そんな場所も
…この他には無い

それに、



あんたの死に様は

俺が見とせよ
てやる

地獄だろうと
何処だろうと

…今日が最後だと
言うのなら



あんなの行く所へ
付き合うまでだ

…は



なあ、大俱利伽羅
数十年この身で
過して来たが

どれだけ人間の真似事を
繰り返したところで

俺達には残らん
死して腐る血肉も無い



きみも
言うように
なったなあ

しかし
死に様、か
色気の無いこと



か



…だが

そうだな



しかしこうして
『無事』役目を
終えた今では、

折れる刃も
無いのだろうなあ

人なのか
刀なのか

これが
死と呼べるもの
なのかも分からん



人の成り損ない
として、

何も残らなくとも、
せめて

きみと再び出会えた
という事だけは

忘れないで
いたいよなあ



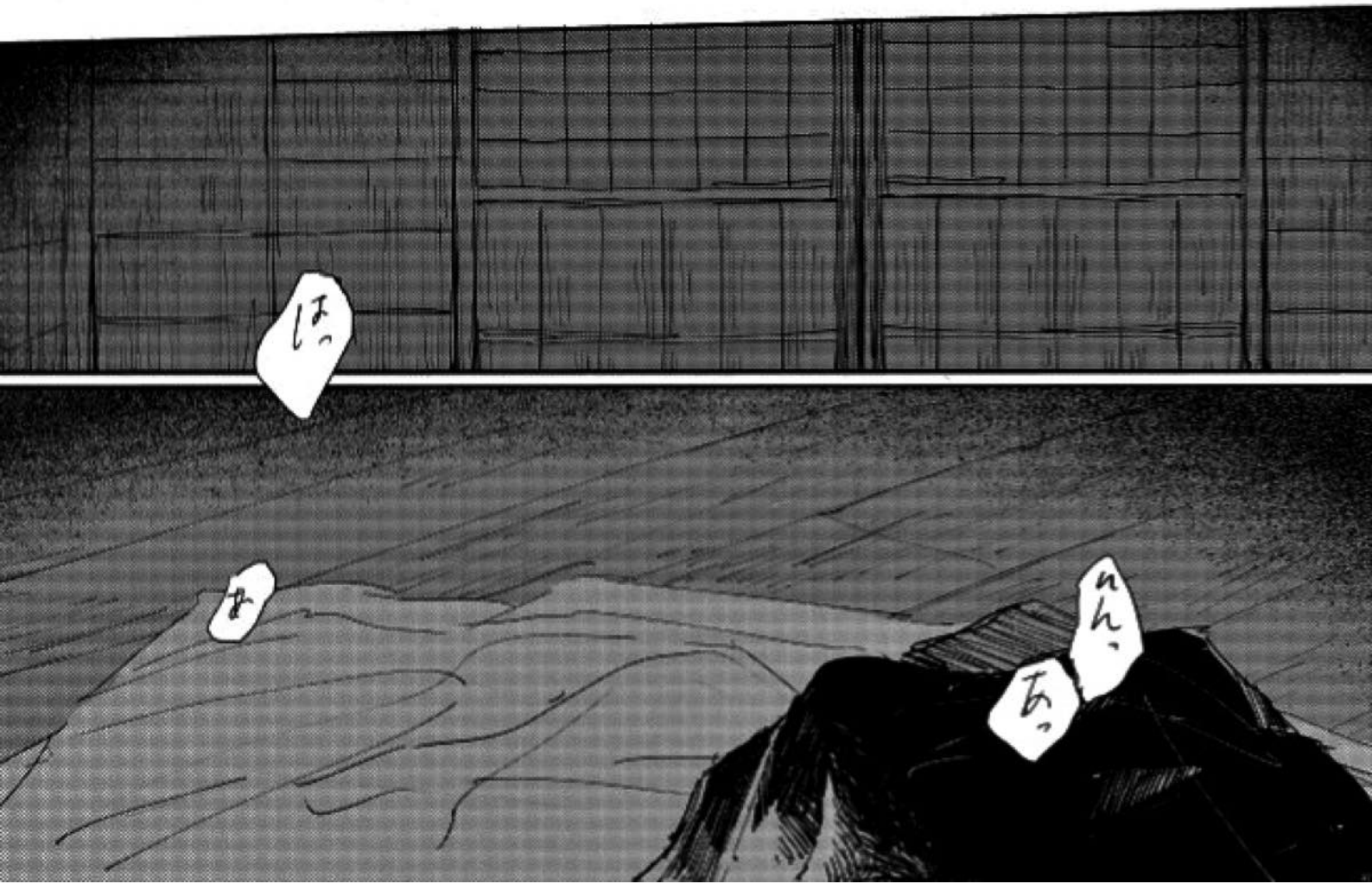
…
何だ

きみと
口吸いがしたい



…あんたは、





ほ

ほ

ん
あ





地獄まで

連れ立って
くれるんだろう？

ふふ



…熱烈で



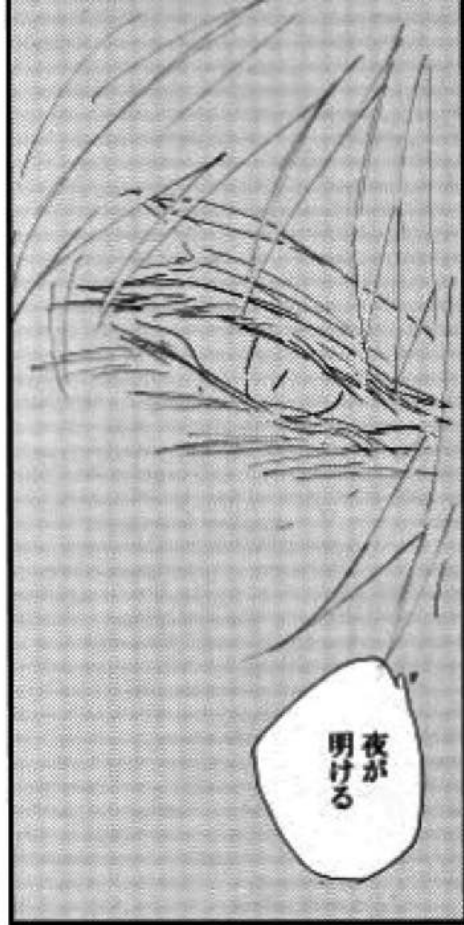
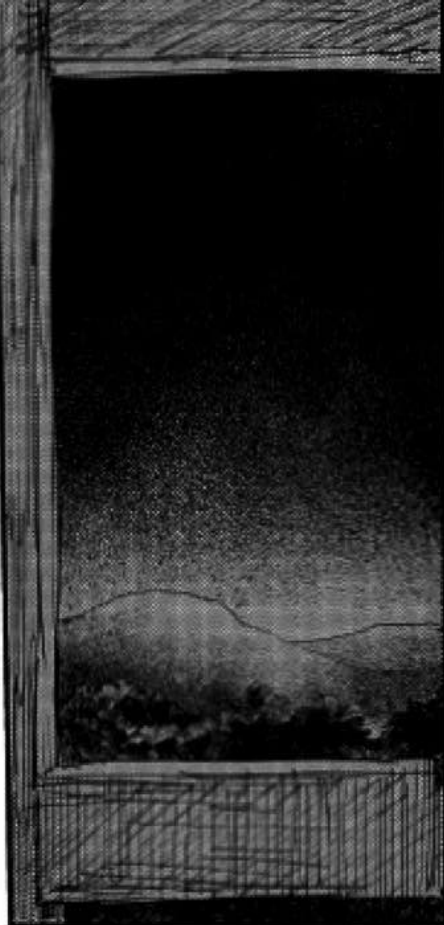
たまんないなあ

はっ

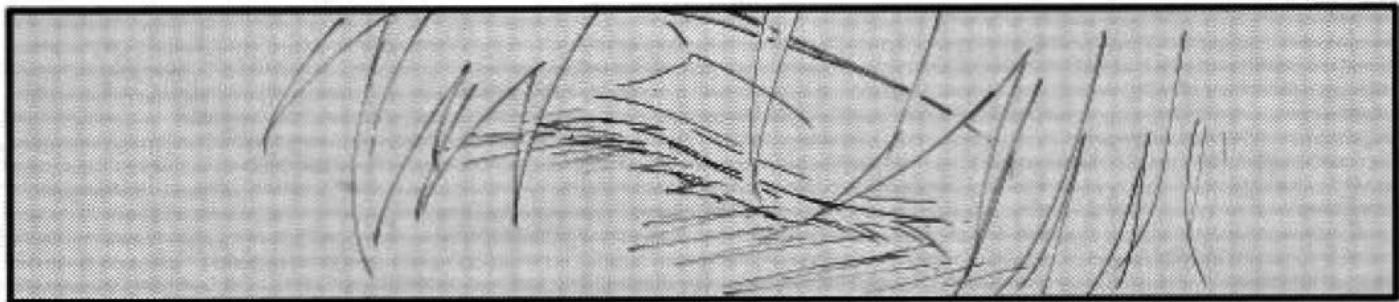
H
III
III
III

Vn





夜が
明ける



きみと
居ると
いつも

あたたか
かったなあ





転々と

転々と

人から人へと流れ、
長い時を過して来た

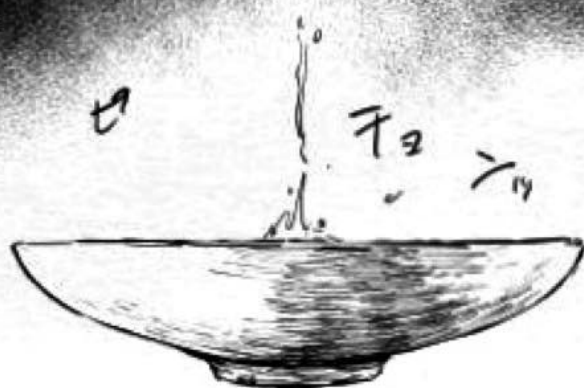


墓を暴く、神域に土足で踏み入る
その愚かさを笑いもしたが

そうまでして
求められることは、
己の価値の裏付けでもあった

刀たる杵持であり、
この鶴丸国永の
刃生である

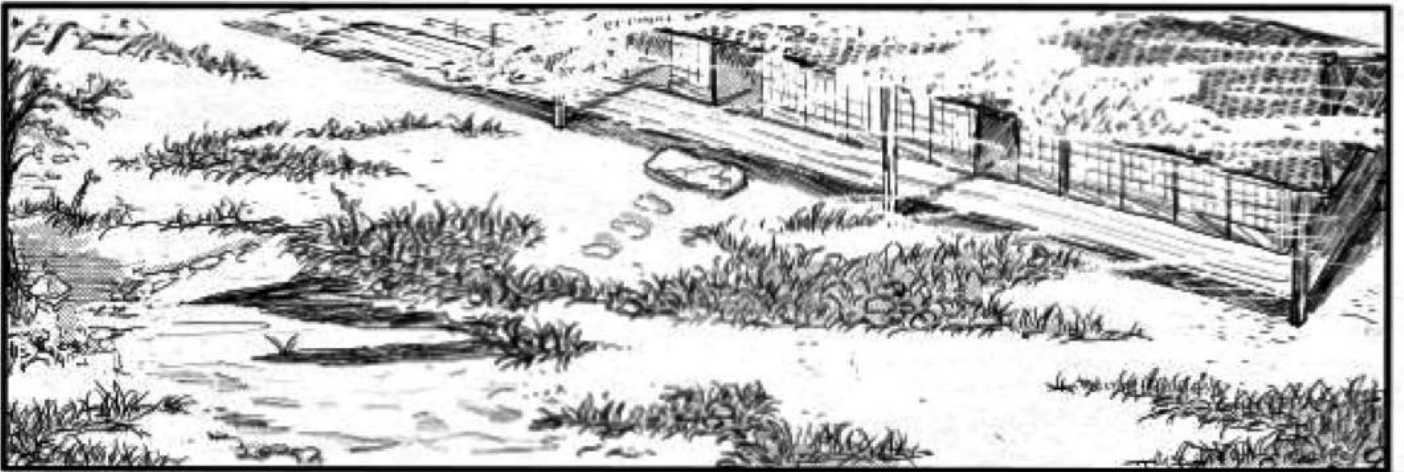
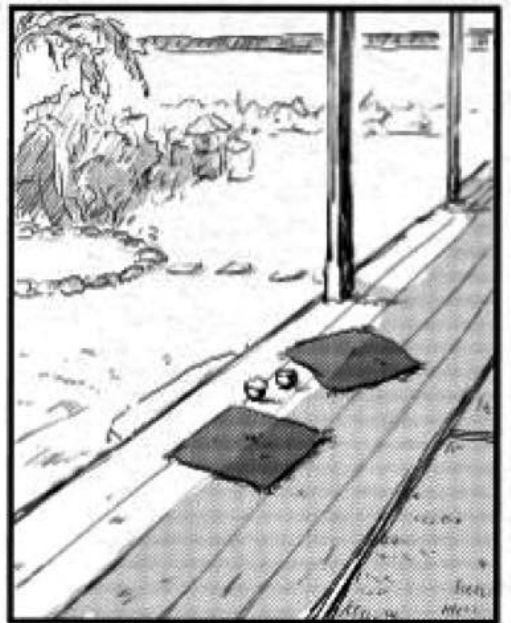
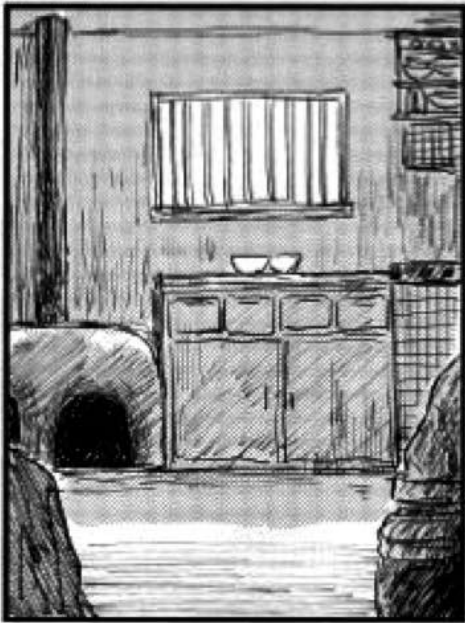
それなのに

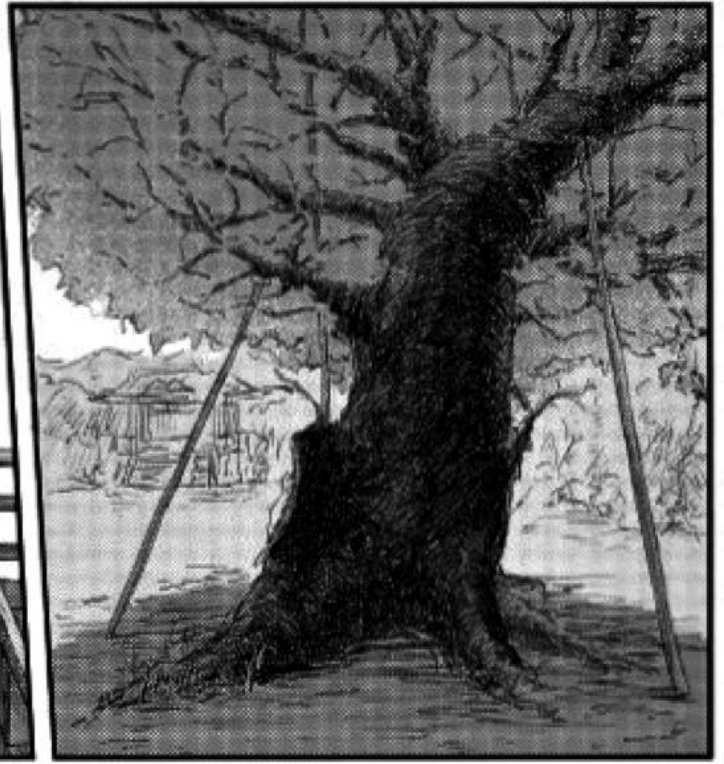
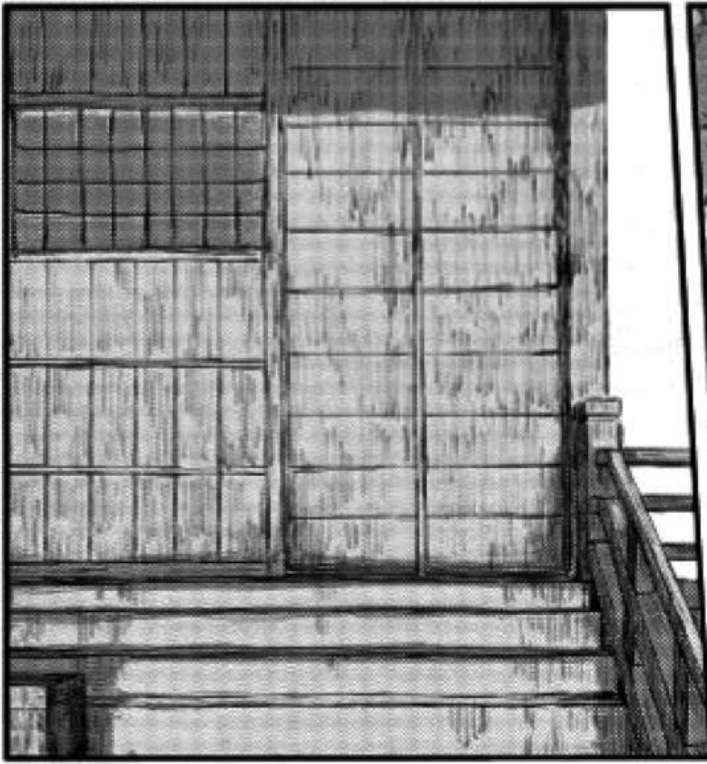


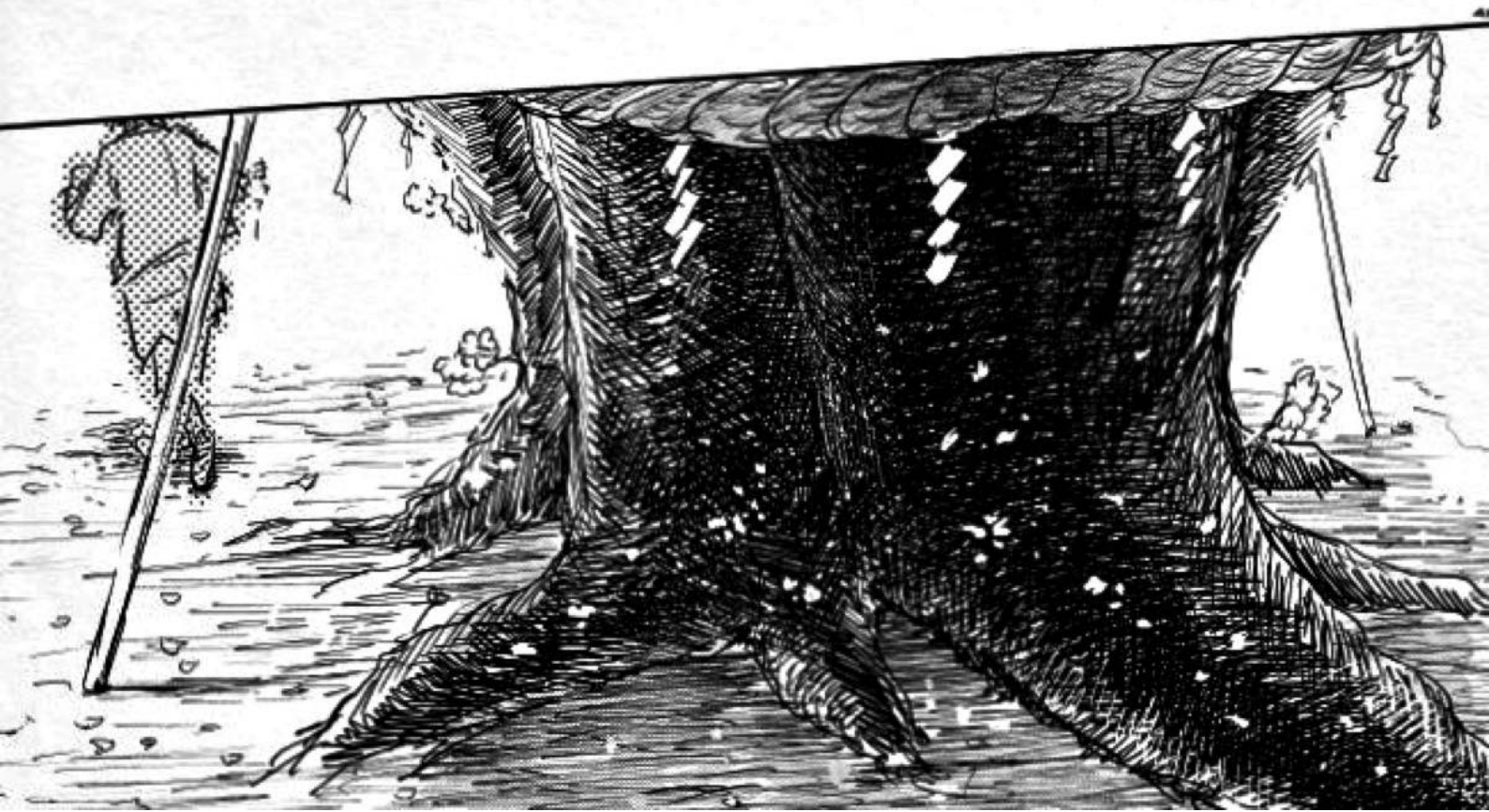
なあ、貞泰







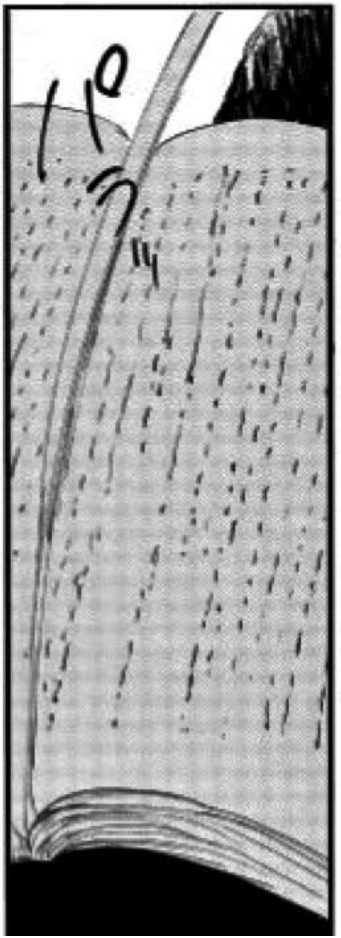






あの賽銭箱
もう古くて
脆いんだがなあ
じい

あの僧侶さし、
……また
うちの神社に
いるな





おい、
きみ

…おい



その
きみ



…イヤホン
してるのか

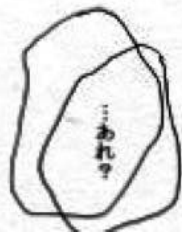
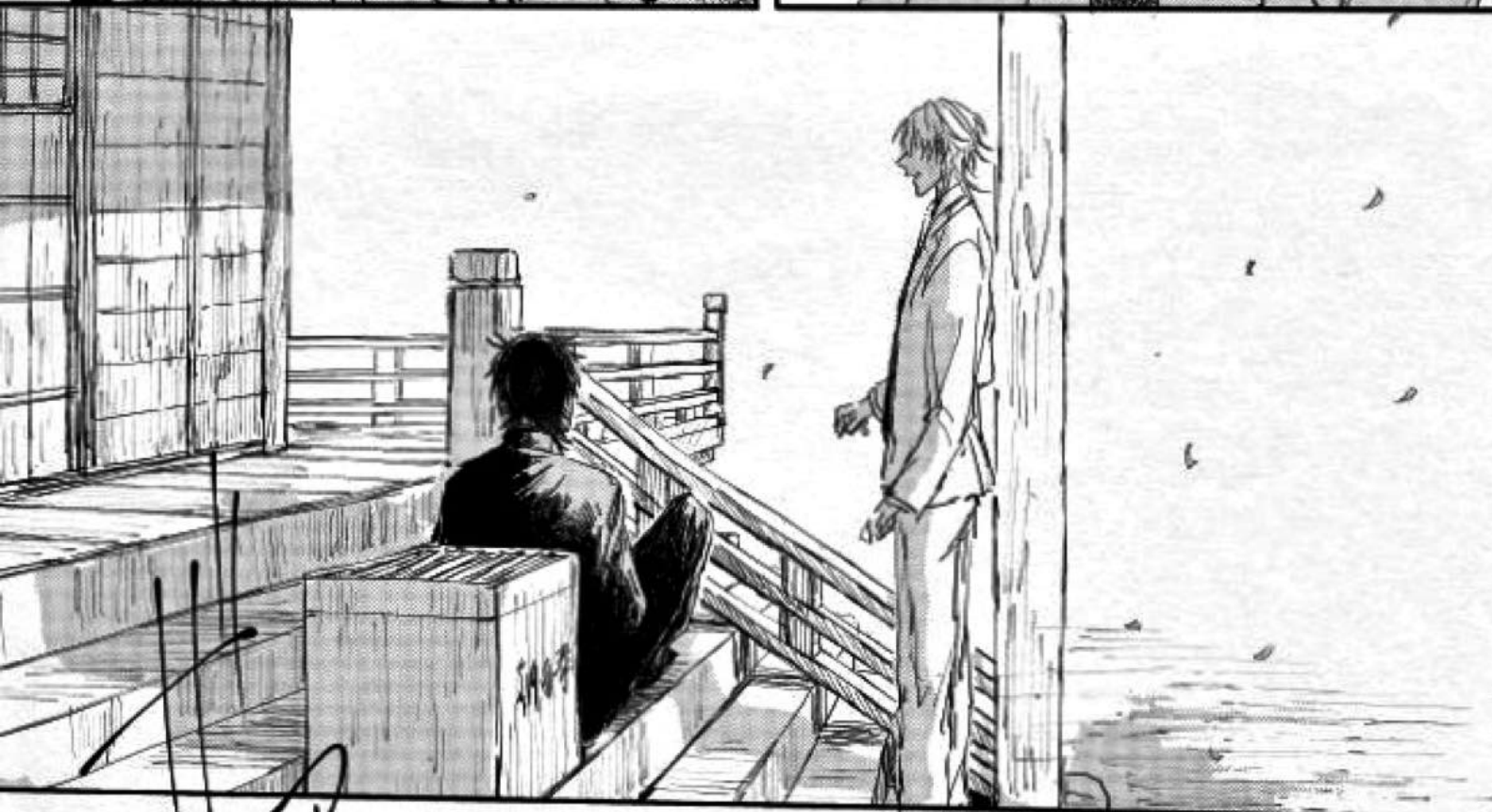


おい
何を、

何度呼んでもきみが
答えないからだろう！

その賽銭箱に
寄りか

っ！
!?



あなた
どこかで...



人の身を得て長くなって、
人間ごっこに拍車がかかった2人の話

本丸顕現した時点で色んな本丸にクローン
状態で枝分かれしていくんだとしたら、
本丸が終わった時本丸に居た時の記憶は
全て消えるのなあとか、

だとしたら、忘れたくない、命が消えても
繋がりが消えない(そんな未来を自分で作れる)
人間はうらやましい、とか思ったクローンの魂
ひとつふたつくらいは人間として転生するバグが
あつてもいいんじゃないかなあとか、
思いながら描いたものでした、

改めて、お手にとつてくださりありがとうございます！

落陽の夢

二〇一六年三月十三日

骨董 / 夏桶

ID: 20092410

ブロス様

ネットオークションへの出品、
複製、無断転載はご遠慮
ください。

